

令和元年度（2019年度）第11期

第1回越谷市廃棄物減量等推進審議会

会議録

令和元年度（2019 年度）第 1 1 期第 1 回越谷市廃棄物減量等推進審議会

1. 会 議 名：令和元年度（2019 年度）第 1 1 期第 1 回越谷市廃棄物減量等推進審議会
2. 開催日時：令和元年（2019 年） 1 2 月 1 3 日（金）午後 3 時 5 0 分～午後 5 時 2 0 分
3. 開催場所：越谷市中央市民会館 4 階 第 1 6 ～第 1 8 会議室

4. 出席者等

- （1）出席委員：岩村せい子委員、須田芳恵委員、富沢二三子委員、西口元勝委員、堀井捷一郎委員、河上繁委員、中村千代子委員、小松登志子委員、浅井勇一郎委員、川寄幹生委員、秋元智子委員、鬼沢良子委員、久保直紀委員、櫻井孝史委員
- （2）傍 聴 者：なし
- （3）事 務 局：鈴木環境経済部長、五十嵐環境経済部副部長兼環境政策課長、會田リサイクルプラザ所長、飯田リサイクルプラザ副所長、長門主幹、市川主幹、小林主幹、和田主査
株式会社総合環境計画 1 名

5. 内 容

- （1）会長・副会長の選出
- （2）諮 問
 - ・越谷市一般廃棄物処理基本計画策定について
- （3）議 事
 - ・計画策定のスケジュールについて
 - ・市民、事業所アンケート（案）について

6. 会議資料

- ◎次第
- ◎諮問書（写）
- ◎第 1 1 期越谷市廃棄物減量等推進審議会委員名簿
- ◎越谷市一般廃棄物処理基本計画策定について
- ◎市民、事業所アンケート（案）
- ◎令和元年度版越谷市一般廃棄物統計資料（平成 3 0 年度実績）
- ◎一般廃棄物処理基本計画（平成 2 4 年度 改訂版）

※ペーパーレス会議の推進を図るため、タブレット端末を使用し説明

令和元年度（2019 年度）第 1 1 期第 1 回審議会 会議録

発言者	審議の内容（審議経過等）・発言内容
	（１）会長・副会長の選出
司会	会長・副会長の選出について、規則により「会長及び副会長は、委員の互選により定める」となっております。どなたがよろしいか、ご発言をお願いします。
委員	前回と同様、会長は小松委員、副会長は堀井委員でどうですか。
司会	審議会の会長として小松委員、副会長として堀井委員との提案がありましたが、いかがでしょうか。 《拍手により承認を得る》 《会長、副会長席へ移動》
会長	《会長挨拶》
副会長	《副会長挨拶》
	（２）諮問書の提出
司会	それでは、高橋市長より諮問書をお渡しさせていただきます
市長	「越谷市一般廃棄物処理基本計画」の策定について、委員の皆様よりご意見を賜りたく、諮問いたします。 《市長が諮問理由を読み上げ、会長へ手渡す》 《市長退席》 《資料の確認。タブレット端末使用によるペーパーレス会議について説明》
司会	規定により、会長が「議長」となっておりますので、以後、会議の進行を会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いします。

議長	傍聴の確認をいたします。本日、傍聴の申し込みはありますか。
事務局	傍聴の申し込みはございません。
	(3)「越谷市一般廃棄物処理基本計画」策定について 1) 計画策定のスケジュールについて
議長	「越谷市一般廃棄物処理基本計画」策定について、「計画策定のスケジュールについて」事務局より説明をお願いします。
事務局	《説明》
議長	ただ今の説明について、ご意見ご質問等がありましたら、お願いいたします。
委員	計画策定に当たって、家庭からのゴミの排出量 400 何グラムとか、目標を作るという理解でよろしいでしょうか。
事務局	審議会の中で出たご意見、市の現状を踏まえた現状策などを考慮したうえで、目標までいけるかどうかというところも、当然審議をしていただくという形になります。
議長	スケジュールは、来年 12 月 5 回目の審議会で最終的な計画案の提示がありまして、2 月に答申ですけど、この答申案の作成はいつになりますか。5 回か 6 回の審議会で皆様の了承を得て市長に答申する流れですか。
事務局	5 回目の審議会で、答申まで調整をさせていただいて、答申に関する文書的なものについては会長・副会長にご一任をいただければ、という形で考えております。あくまでもスケジュール予定ですので審議の状況によりましては、あと 1 回を追加することや、もしくはもっと早く意見がまとまるということであるなら回を減らすなどができると思います。進捗に合わせて変わる可能性があることをご承知いただければと思います。
議長	他にご質問等ございませんか。 他にご意見がないようですので、「計画策定のスケジュールについて」を終了いたします。

	2) 市民、事業者アンケートについて
議長	それでは、「市民、事業者アンケートについて」、事務局より説明をお願いします。
事務局	《説明》
議長	ただ今の説明について、ご意見ご質問等がありましたら、お願いいたします。
委員	アンケートについてお聞きしたいと思います。 このアンケートは、同じようなアンケートを改訂ごとに取りられていると思いますが、前回は何年前に取りられたかということをお教えいただきたい。 私の意見としては経年変化をみるために、同じような質問をしても良いのではないかと思います。ただ、新しいことも聞きたいと思いますので、それはまた別の項目に入れば良いのではないかと思います。意識の変化を見るだけでもある程度同じような内容にしたほうが良いかなと思いました。それと、災害廃棄物計画はどのように考えられているのかお聞きしたい。
事務局	前回の計画を作成する際にも、市民のアンケートは行っております。 同じ質問を聞くということも必要かと思いますが、今回の場合は、質問内容を改めるという形を含めて、昨今話題になっているマイクロプラスチック問題に関する廃プラの出し方・処理の仕方、さらには食品ロスに関するものに、どれだけ市民の方の関心があるのか、関心がないものを市が率先してやるという話をしても政策として成り立たない場合もありますので、そこも含めて単純に市民の方が知らない理由が、市のこちらのPR不足なのかも含めて調査させていただき、計画に反映させられるような情報を審議会に提供したいと考えています。 災害廃棄物計画につきましては、本市が属する東埼玉資源環境組合を構成する5市1町で、平成30年3月に災害廃棄物基本計画という形で、国が方針として出しているような計画につきましては作成しております。
議長	はいどうぞ。
委員	市民アンケートを無作為で1500人をお願いするとのことですが、回答はどのくらいを予定されているのですか。 また、市民アンケートの間28の中の3番目、プラスチック全量が確実に処理され海洋プラスチックごみなどの削減に貢献しているからという、これはちょっと誘導しすぎではないかと思います。 もともと、越谷市がプラスチックの処理を決めたときは海洋プラスチックのことを考えて決めたわけではなく、この回答欄だとほとんどの人がここにつけますよね。ここは

	海洋プラスチックのことを聞きたいのであれば、別の形で、関心ごとに海洋プラスチックがあるかどうかと聞いたほうがより正確なアンケートになるのではないかと。 それから事業系のもので、問 11「積極的に取り組んでいる」というのは非常にあやふやで、答える方が積極的に取り組んでいるのがどの程度かというのがわかりにくい。むしろ積極的に取り組んでいるのであれば、「一店舗からあるいは一事業者から出るゴミを必ず毎回計量している」等を聞いたらいいいのではないかと思います。計量すると必ず減ります。だから、それを知っているのか知らないのかはすごく大きなことだと思いますし、アンケートをすることで「うちも計量したほうがいいよね」とか、当然それは委託費用に関係してくるわけですから、本来費用のことも丁寧に聞いたほうが良い。
事務局	「1500 人にお願いするというので、回答はどのくらいを予定するのか」ということですが、アンケート数の 4 割程度は回収したいと考えております。 海洋プラスチックにつきましては、多少誘導的なところがあるのは否めないところですので、文言については考えさせていただきたいと思います。 さらに、事業系ごみにつきましては、事業所に計量装置を持っている事業所がすべてではないので、難しいところです。また、排出事業所で、計量するものを持っている事業所であれば、積極的に取り組んでいるということだと思います。多少抽象的かも知れませんが、内容としてはお示しした案の形でアンケートをとらせていただきたいと思いますと考えております。
議長	事業者アンケートの問 11 で 1～3 と答えた方が、問 13 で「どのような取組みを行っていますか」とあります。ここに、例えば「ごみを排出するときに計量している」という項目を加えてはどうでしょうか。
事務局	了解しました。問 13 は複数回答となっていますので、一項目、付け加えさせていただくという形でアンケートを修正したいと思います。
議長	次の質問をどうぞ。
委員	市民アンケート問 12 の項目 2 に「マイクロプラスチック」が出てきますが、ここでは多分プラスチックごみを分別収集する・しないという議論であり、その資源循環の話と海洋汚染の話とは質が違うと思います。 質問するのであれば、プラごみで何を聞きたいのか、マイクロプラスチックで何を聞きたいのかを整理する必要があります。 プラスチックごみについては、越谷市が進めている分別収集をどうするかという話で、分別すればプラスチックごみの海洋問題がなくなるという話はありません。 また、問 27 では「プラスチック製品を燃えるごみとして回収し」のくだりがありますが、資源循環戦略を読みますと、マテリアル、ケミカル、サーマルはリサイクルと呼

	んではないのではないか、戦略では「熱回収」であります。リサイクルではなく、ISOの区分でもサーマルはリカバリーとなっています。サーマルリサイクルと呼ばれる方はたくさんいらっしゃいますが、資源循環戦略ではないです。 しかし、現在必要なことであることは間違いない。 このあたりが適切な説明になっていないと思います。 次に、枠内のところを読むと、「燃えるごみとして回収し焼却したエネルギーで」とあるが、これは熱エネルギー回収であって、これをサーマルリサイクルと呼ばないとなりますから、その説明を的確にさせていただく必要があると考えます。いくつかサーマルリサイクルという文言があったので、そこをもう少しお考えいただきたい。 事業所の方は読んでいて、どのような事業者を想定しているのか見えない。 例えば、問 10 に「排出量の多いゴミは何ですか？」という設問があるが、業種によって話が変わります。産業廃棄物を出している事業者に対して質問をするのか、小さいコンビニに聞くのかによって中身も違いますので、このあたりの整理をしておかないと、事業者に対する設問全体が工業向けのような設問に見えます。 そうであれば、物を作っている事業所の産業廃棄物を出している方についてはどうかということに区分けをしておかないと混乱するのではないかな。 また、問 13 に書いてあることは、工業以外は関わらないことが半分ぐらいあると思います。したがって、業種に分けて質問をするなどで、よりの確に伝わるのではないかなという気がします。 お願いとして、「使い捨て」云々という文言がありましたが、資源循環戦略の検討をやっているときから水面下で「使い捨て」という言葉を使用するか、ヨーロッパでは「シングルユース」、あれこれ議論はあって最終的には「ワンウェイ」という言葉に代わっている。戦略には「使い捨て」という言葉は使っていなかったですね。事業者からは「ワンウェイ」という言葉にさせていただいたほうがよい。「使い捨て」というのは、まったくその製品の機能が評価されていないという風に伝わってしまうのではないかなという議論があったので、表現を検討していただきたいです。
議長	ありがとうございました。よろしくお願いいたします。
事務局	文言と内容につきましてはもう一度見直しをさせていただきたいと思います。 サーマルのことやワンウェイのお話など、もう一度見直しをして訂正すべきところは直させていただきます。同じく、マイクロプラスチックにつきましては、多少誘導的なものもありましたので、もう少し言い方を検討します。 また、事業者の捉え方については、基本的には一般廃棄物処理基本計画ですので一般廃棄物を排出している事業者を主としています。 アンケート設問のはじめで、事業主体とか事業形態を聞いていますので、そのうえで、問 10 の排出量の多いごみを見たときに、一般廃棄物、産業廃棄物の捉えられ方、一般廃棄物の処理が理解されているかどうかなどを、越谷市内に少ない業種・業態もありま

	すが、ある程度満遍なくアンケートを投げさせていただき、回答いただきたいと思います。
議長	先ほど、プラスチックごみとマイクロプラスチックを分けたほうが良いといったご意見がありましたが、それはどうですか。
事務局	ご指摘のように「マイクロプラスチックによる海洋汚染など」の括弧の部分は、考え方が違うと思いますので、この項目から削除したいと思います。
議長	よろしくご検討ください。他にありませんか。
委員	事業者アンケートの問 15 に、「シュレッダーごみの資源化」とありますが、シュレッダーをかけると繊維が短くなりリサイクルしにくいという面があるので、問 15 の 5 番は、「シュレッダーごみの資源化」を「機密文書の資源化」に変えてはどうか提案します。
議長	シュレッダーについてお聞きしたいが、シュレッダーごみは燃やしているのですか。
事務局	細かく裁断されたものは、可燃ごみとなります。越谷市では、シュレッダーごみは古紙業者に分別して処理をしてもらっています。事業所としては、機密文書的なものをシュレッダーしているということでしょうから、「機密文書の資源化」がわかりやすいということであれば検討します。
議長	よろしいでしょうか、他にありませんか。
委員	市民アンケートでは、関心があるかといわれたら、どんな人でも少しは関心があるかもしれないし、他に比べれば関心が薄い、自分のところに災害があったらすごく関心が高まる。個々人によって違うので、そのアンケート結果を、今後の政策にフィードバックしていくことには疑問に思えるところがあります。 例えば、市民アンケートにごみ収集の頻度が多いか少ないかという質問がありますけど、1500 人のうち 400 人が回答して、そのほとんどの人がペットボトルは 2 週に 1 回の回収は少ないから、1 週に 1 回のほうが良いという話を問うよりも、市の方針がもっと重要なのではと思いました。 また、私は、食品ロス個人個人で違うものだから、食品ロスの調査をやっても無駄だと思っている。しかし、県にお願いされて飯能市・熊谷市に行ったことがあり、そこで面白いことがあった。飯能市・熊谷市で行った調査では、飯能市が想定よりも雑がみ類の排出量が多く、実際の内容物データを市が把握する必要があると思いました。

議長	どうもありがとうございます。
事務局	ごみの内容物検査は、越谷市では可燃ごみの排出先である東埼玉資源環境組合のほうに5市1町の担当者が立ち会って、内容物の調査を月に数回程度行っております。その中で、データとして各市町にそれぞれフィードバックしています。排出された段階で再生可能だった紙なのかどうか、微妙なところが多いということは、市としても多少問題もありますので、設問では回収が多ければ出しやすいのか、少なければ出しにくいのかではなくて、一番身近なところでどう要望があるのか、いったん把握しておく必要があると考えています。 また、食品ロスの調査については、2年前に埼玉県清掃行政研究協議会で越谷市が会長市の時に、越谷市と川越市のものを一部検査したデータもあります。今後、フィードバックしてご意見をいただければと思っております。
議長	アンケート調査では、例えば、プラスチックリサイクルについて市民の方のご意見を聞いたならば、皆がそれでいいと言ったからそれで決めるということではなくて、参考に聞くということで、市は市の方針を持ってやっていかなければならないということはあると思います。 プラスチックリサイクルについて、3つほど説明がありますが、これを読んで市民の方が、「あっそうか、それじゃ2番のほうがいいかな」と気づくかと思います。すべて簡単に、3種類ありますよというのではなくて、どういう利点欠点があるかなど簡単に書ければいいのかなと思いますが、いかがですか。
事務局	ごみ処理に関する費用、さらにはCO₂排出量削減に係る費用などは、最終的に誰が負担するのかという話になれば、市民の方に負担していただくことになってきます。行政の判断としては、費用対効果を踏まえたうえで判断しますが、市民としては、どういう考えをもっているのかというところは最低限捉えておく必要はあると思います。 このような機会にアンケートを行い、最低限のところは聞かせていただき、最終的には市の判断も入れたうえで今後の政策等に反映させていきたいと思っております。
委員	誤解をされるかもしれませんね。ペットボトルの例が出てくるのですが、特例と思っていたほうがよい。もっと前段でプラスチックとは何ですかという説明がよくわからないままでアンケートに入るので、ペットボトルはごく一部で、量から行けば5%ぐらいの話です。卵パックも確かになっていますが、これを書くともみんながそう受け止めてしまう。ここが大きな誤解になるのではないかと。 ケミカルの方も、書いてあるとおりですが、読んでも多分わからないと思う。例えば、ガス化にすることと、焼却とは見た目あんまり変わらない。アウトプットのガスの状態と熱エネルギーとはかなり違いますが、この3行ではわからない。 これを市民の方が読まれて、酸素、炭素、水素が云々を見て、イメージがわからないと

	思います。表現の仕方をここで説明できなければ、添付資料やパンフレットがないとわかりにくい。サーマルリサイクルもそうです。
議長	どんなに言葉を丁寧に説明しても、なかなか一般の人が読んで正しく理解するのは難しいと思いますが、現在越谷市ではどのようなプラスチックリサイクルをされていて、それに対してどう思いますか、と聞いたほうがいいのではないですか。 例えば個々の3種類を出したところで、このアンケートの結果として8割の人がこちらのほうがよいと言ったとして、それに直ぐに変わることはないですね。それだったら、越谷市ではプラスチックはこういう処理をしています、それに関していくつかの選択肢を出して、それを選んでいただくという方が誤解が少ないのではないかと思います。
事務局	サーマルリサイクルの下に「現在市では」ということを載せてはいますが、確かにマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリカバリー、その辺の言葉遣いにしても、私たちのほうでも、すべてを文言どおり理解できているかといえばそうではないというところもあります。ご指摘のように、サーマルリサイクルをやっているが、それ以外に何があるのかなど、少なくとも何か情報提供したうえで答えていただく必要があるのかなと思いました。もう少し良い説明のものがあればぜひご教授いただいた上で、プラスチックリサイクルについての問ができればと思っております。
議長	次、どうぞ。
委員	先般、群馬県のある市で80人ほど市民が集まり、我々も行き、グループ分けをして意見交換会をやりました。そのとき、その市ではプラスチックの分類をしていなかった。具体的に分かりやすいものを示して、「リサイクルをしているんですか」という質問が市民の間から出るんです。結果から言うと、やらざるを得ない方向に行った。 これに近い話がアンケートにもあると思います。今こうやっているから、この先どうだということであればそんなに大きなことにはならないでしょうが、この設問でみんなやるとなったならば、返って難しいことが出てくると思う。でも、本来はそうすべきなのかもしれませんが、どうでしょうか。
議長	ありがとうございます。いかがでしょうか、専門家が、マテリアルリサイクルがいいのか、ケミカルがいいのか、サーマルリカバリーがいいのか判断するのであれば良いが、一般市民の方にはなかなか難しく、簡単な説明じゃないと読まない、添付資料なんか付けたって誰も読まないと思います。この辺をもう少し再検討していただければいかがでしょうか。
委員	一般的な手法としてありますが、現実的なプラスチックをリサイクルするとなると、

	今のリサイクル法によると、毎年入札をする形で手法は知っても選択できない。一番はケミカルがいいといったけれどケミカルの方の業者が落札しないということは十分あり得ることです。設問に書いてあることと現実の動きに乖離がありますので、そこはご承知いただいたほうがいいかなと思います。
事務局	プラスチックにつきましては、現在の熱回収について、それでいいかどうかという聞き方が一番簡単な聞き方だと思いますのでこのような内容でよろしいですか。そうでしたら、現状の市の方法でいいか、それとも他に変えたほうがいいかといった設問に変えたいと思います。
議長	今のでいいですか、どこが悪いのか、といわれてもかなり難しいですね。
事務局	私のほうで捕捉させていただきますが、一般市民の方が、マテリアル、ケミカル、サーマルをどう理解するかというのは難しいと思います。 プラスチックに関する質問全体については、何か協議をさせて頂いてどういう表現にするか、一つは先ほどのご意見でヒントを頂きました、今越谷でやっていることを、市民の方に知っていただきたいのでその要素も入れながら、設問は検討させていただきたいと思います。 スケジュール的なところもありますので、今日いただいた意見のなかで検討したいと思います。そもそも越谷市は、あれだけ大きな5市1町の工場があって、ごみの熱回収をして発電をするという事業は今更止められないと思います。それは他にはない資源だと思っています。そこを生かしながら、ただ、何でもいから燃やしていいかという議論にはならないと思います。 ですから、ちゃんと燃やせて熱回収できるという資源は最大限活用しながら、後はそこに投入するものをどれだけ減らしていけるかというのがこの10年のなかの大きな課題だと思います。 今やっているところを一つベースにしながら、プラスチックの問題、食品ロスの問題が新しいテーマとして入ってきました。その取り組みも含めてリユースにもってくる量を減らせるのか、それから、超高齢社会になってくるので高齢者の皆さんのごみ出しに対する取り組み、個別にふれあい収集を拡大していくべきなのか、そういうところも大きな課題になっています。 ベースは、越谷市の資源として最大限に生かし、その中で越谷市が取り組めることを今回の計画づくりの中に生かしていけたらと考えていますので、是非色々なご意見をいただければと思います。
議長	はい、ありがとうございます。特にサーマルリカバリーを変更する予定がないのであればわざわざ聞かなくてもいいのではないかという気がします。その辺も含めてご検討いただきたい。

委員	ごみの減量化に関して、減らない場合はごみの有料化ということも考えられるかと思っています。市民アンケートの間 12 に入れておくことはいかがかなと思いました。 もう一点は、事業者アンケートの間 12「ごみ減量や資源化に取り組む理由は何ですか」と書いてあって、2 番は「環境に良いため」、4 番は「会社のイメージアップのため」は似たような感じに思えました。 もう一点は、中小企業ではエコアクション 21 とか、環境マネジメントシステムを入れているところがあると思うので、そういった設問を入れるといいのではないかと思います。
議長	はい、ありがとうございました。
事務局	通常のご家庭ごみの有料化はしないという方針ですので、アンケートに入れますと、市のほうの意識に誤解を与えかねないと思います。慎重に検討させていただければと思います。 もう一点の方は、もう一項目問いに追加して、取り組みをしていますかというようなものを付け加えるほうがわかりやすいと思いますので、アンケートに付け加えて対応したいと思います。
議長	はい、どうぞ。
委員	過去の回収率はどのくらいなのかということと、回答者に関して越谷市の傾向というもののはどの程度反映した偏りがないものかといったことについてお伺いしたい。
事務局	前回のアンケートにつきましては、回収率は 3 割半ばだったと思います。年齢層によって回答率に違いがみられるのも実情ですが、それを防ぐために無作為抽出しています。たまたま若い年齢層が集まれば回収率が下がることもあり、それはそれとして、一つの結果として受け止めざるを得ないと思います。
議長	はい、どうぞ。
委員	市民がどういうものに関心をもっているか聞いたとしても、回収率が 3 割程度で次の政策に反映できる内容とは思えない。 また、SDGs は一人一人の行動変革を促しているので間 13 をもう少し進歩させて具体的にいくつかを示して、「あなたがすぐできる行動は何ですか」と聞いたほうが、今後の政策の具体的な参考になると思います。
事務局	どういうことができるかが大事なところだと思います。市民の皆さんが関心をお持ちなのか探りたいというのが考えですので、それに通ずるような質問のほうを考えてみた

	いと思います。 それから先ほど話した、有料化の関係につきましては、私どもも今すぐ有料化ができるかどうかは今回の 10 年の計画の中で示すのは難しいとは思いますが、避けて通れないところと思っています。 前回の計画ではまったく有料化に触れていませんでしたが、次の 10 年では、触れなくていいのかということを考えています。有料化といっても、ごみ袋を買っていただくのも有料化ですし、コストの半分以上を市民の皆様にご負担していただくというコストから割り出した有料化という考え方もあります。 越谷市だけで全部処理していれば、越谷市だけの判断で行えますが、5 市 1 町を同じ工場でごみを処理している実態があるので、もし有料化を始める場合は、5 市 1 町で足並みをそろえて同じような値段で同じようなゴミ袋を買っていただくような広域的なオーソライズというの必要になってきます。 広域でごみ処理を行う場合、有料化するときも一緒のタイミングになるでしょうし、資源ゴミを集めているものも 5 市 1 町みな同じかというと、微妙に違ったりする。現在、白色トレイは越谷市、八潮市だけが集めて、他の市はごみとして燃やしています。 また事業所に回収ボックスがあったり、事業者回収が広まっていくような社会形成をしていき、行政で集めるのは何にするのか、逆になかなか集まってこない雑紙が結構燃やされているので、雑紙を燃えるごみから回収するにはどうしたらよいか等をこの 10 年の中でしっかり考えていかなければならないと思います。 有料化については、このアンケートの中でどんな設問ができるかは内部で検討し、設問内容については事務局で判断させていただきますが、そのあたりは検討させていただければと思います。
議長	ありがとうございました。はい、どうぞ。
委員	18 歳以上の人口を教えてくださいのと、1,500 人の 4 割程度の回答結果で市民のアンケートとしていいものかなという疑問です。
事務局	あくまでも統計的なデータを取るにあたってはそれぐらいなもの、統計的な見地ではそういう数字ですよというのは聞いたことがあります。それで本当にそれでいいのかということもありますので、400 人ぐらいというと 2 割の回収率なので、その倍の 4 割強は回収したいというのが願望としてあります。
委員	越谷市民まつりとかは大勢の人が集まるので、そういう場も利用して何かアンケートするとたくさんの意見が集まり、反映することができるのではないのでしょうか。
事務局	こういうアンケートは無作為抽出で偏らないデータを集計するもので、最初から偏った母集団からいくと若干内容に疑義が生じる可能性があると思いますので、無作為とい

	う形を取らせていただいております。
議長	アンケート結果をそのまま計画に取り入れるというわけではなく、統計処理は妥当ということですね。
委員	抽出者を 2,000 人にしてはどうか。
事務局	予算的な意味もありまして、現在の数字になっております。 市民アンケートは、定型的なアンケート方式で行いますが、市民の声はこれに関わらずいろいろ聞きたいと思っていて、ごみ出しを含めて自治会の班であったり、ごみ当番であったり自治会との関わりがある中で、ごみの回収は進められているとされているので、各自治会長やゴミ減量推進員という各自治会から推薦いただいてごみ分別や回収に関するアドバイスや分別に関するいろんな取り組みにご意見をいただく 500 人以上の推進員さんがいらっしゃいますので、このアンケート以外で、現状や困った点など意見を話し合う機会を作っていきたいと考えていきます。
議長	ありがとうございました。その他、どうぞ。
委員	集団回収について、市がなんのために集団回収しているのか。集めるのはステーション回収で十分。事業系については、許可業者とか産廃業者が集めるので、それをちゃんと選択していますか、そこから情報を得ていますか。許可業者などは施策に協力する義務があるはずなので、彼らをもっと使うべきです。そういうことに関連したような設問を作ったほうがよろしいのではないかという感想です。
議長	よろしいでしょうか、これで終わります。
副会長	《副会長挨拶》